



野球部OB会

毎年1月2日に県下高校野球連盟東京支部の学校が、OB戦を開催（五会場各二試合四チームで行っている。）会場は当番制で行う。

1月2日の試合の日、午後六時から「えきまえミヨシノ」で総会を開催することとしているが、卒業生が各期それぞれ会を開催することが多くなり、「総会」には参加者が少なくなっている。対策を考慮中である。

毎年夏の大会前に「朝日野球部を甲子園に送り出す会」から激励金を贈呈している。

（古南 禎三）

サッカー部OB会

1月2日恒例の紅白戦を行いました。当日は好天に恵まれ、現役部員も運営と試合に協力してくれました。

OBの木村氏が代表を務めるフージャアノ岡山FCのホームの試合では、バックスタンド上段での応援を今年も続けています。ご観戦の折にはぜひ声をかけていただければと思います。みんなで試合を盛り上げて行きましょう。

来年1月3日に岡山朝日高



平成23年1月2日 朝日高グラウンド 参加者OB約50名、現役14名

校グラウンドでOBによる紅白戦を行う予定です。詳細は決まり次第同窓会ホームページでお知らせします。奮ってご参加下さい。

（昭50卒 川井 立夫）

テニス部OB会

今年の初打ち会は、当日参加の9名が加わり計68名の盛大な初打ち会となりました。現役が早くからコート整備をしてくれましたが、女子専用



平成23年1月3日 朝日高テニスコート 参加者全員での記念写真

コート一面が使えず、ソフトテニス部のコート二面をお借りして三面で行いました。退任する瀧会長・栢野新会長・新役員の挨拶、OBの自己紹介、3名の顧問の先生と現役から榎本男子部長、女子一年生須田代表からの挨拶のあと、現役対OBのダブルス親善試合を楽しみました。

毎年1月3日は初打ち会を開催しますので、多くのOBのご参加をお待ちしております。

（昭32卒 瀧 正敏）

ラグビー部OB会



平成23年1月3日 朝日高グラウンド 参加者62名

1月3日毎年恒例のOB戦を現役選手7名（2年生&1年生）と若手OB40名（平成9年卒〜平成22年卒）にOB（昭和53年卒以前）10名、OG5名、合計62名の参加で開催。20分ハーフを2試合。

現役選手が7名です。OBの中に現役選手を含めた紅白戦で実施。正月のラグビーはラグーマンの勲章。

大学、社会人でプレーしている若手OBの自由自在にグラウンドを翔る姿は、ラグビー部OB会、今後ますますの繁栄を期待できます。

しかし、単独でチーム編成できない現役の状態は、OBとしては非常に寂しいものがあります。現役あつてのOB

会。OB会会員476名の力で部員勧誘にご協力ください。特に来年男子の受験生をお持ちのOBの皆様、岡山朝日ラグビー部、よろしくお願ひ申し上げます。

（昭46卒 大塚 壮平）

誌面の都合により、寄稿いただいた原稿の一部を文意を変えない範囲で編集させていただきます。あしからずご了承ください。

右翼ラインの藪へ

戦前の岡中・一中生は、第六高等学校の広大な運動場を羨望の目で眺めていた。この六高グラウンドが彼らにとって忘れ難いものとなったのは、1921年8月3日の、全国中等学校野球選手権大会への出場校を決める山陽野球大会の決勝戦であろう。

岡山一中野球部は、この日の広陵中学（広島）との対戦で、五対二で迎えた五回裏、一死満塁の好機を掴んだ。打者今井投手。彼は大飛球を「右翼ラインに副って藪に打ち込んだ」（山陽新報）。審判はファウルを宣し、一中側は「球はライン内にある樹木に当たった」と、抗議は一時間を越え、相手は退場し、試合は中止。主催者側は鳩首抗議し、一中側が折れて、四日に五回から再開することになったが、夜になっても一中応援団は自動車で宣伝ビラを撒くなど殺気に満ちていたから、午前一時、主催者側は岡山を避け、「鳴尾^(*)に開催する」と公表した。不穏な中で、先輩が乗り出して、四日は試合せず、五日に岡山で再試合をすることで収めた。一中野球部は再試合をものにして、ようやく全国大会への出場権を得た。

一塁側に藪があったとなれば、ホームベースの位置はどこか、新たな謎解きが必要である。

*兵庫県西宮市にあった鳴尾球場。1924年に甲子園球場が完成するまで、第3回から第9回までの大会がここで行われた。